（別紙5－1）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【授業担当者】

所属/職名：グローバルセンター/教授

氏　　名：畝田谷　桂子

授業科目名	グローバル実地研修 （地域人材育成プラットフォーム　かごしまグローバル教育プログラム必修科目）□
研修先 （大学・国・都市名）	遠隔研修： 西オーストラリア大学、同大学大学英語教育センター（CELT)による遠隔講義プログラム
研修期間	令和 2年 8月 17日　～　令和 2年 9月 18日

［研修の目的・概要］

本研修は、全学部生を対象とした学部横断型教育プログラム「地域人材育成プラットフォーム：かごしまグローバル教育プログラム」の必修科目である。同プログラムは、①鹿児島地域とその文化を認識しつつ、異文化と多様性を尊重して相対的に捉える能力、②グローバルな環境下で、地域課題を理解し建設的にコミュニケーションする能力、③グローバルな人的ネットワークで他者と協働し、地域課題解決に向けて行動する能力を育成することを目的としている。本研修の履修要件は、同プログラムに定められた4科目の事前履修で、これらの科目を通して、多文化共生のための基礎知識や地域に対する深い理解、地域課題をグローバルに捉える視点などを具えた、地域社会のグローバル化に資する人材育成教育を行っている。本研修の目的は、このプログラムの仕上げの実地研修として最終段階に位置し、研修を通してこれらの目的の達成により近づくことである。

研修の概要は、西オーストラリア大学英語教育センター(Center for English Language Teaching、以下CELTという)で毎日4時間5週間、総計100時間の英語授業に参加して英語能力を集中的に高めるとともに、多様な国の受講生とのコミュニケーションを体験する。CELTの授業や多様な国の受講生、西オーストラリア大学生とのオンライン交流を通して、異文化であるパース市の生活や多文化共生等について学び、人的繋がりを構築する。さらに、事前学習で鹿児島とパース市について学習し自ら設定したテーマに基づいて自主調査を行い、課題解決に向けたアイディアを、修了レポートとしてプログラム修了演習科目でまとめる自律的活動も行う。

〔研修の成果〕 ＊事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。

コロナ禍のため、研修の実施は不可能と思われた中、急遽CELT でオンラインZoom研修が計画され、参加することとなった。現地滞在する留学において、生活全般にわたって自身がマイノリティとして異文化を体験することによる学びは、オンライン研修では同程度には望めない。しかし、参加学生の報告書から、英語能力の確実な伸び、並びにグローバルな視点や能力を、日々のオンライン授業から学ぶことができたことが確認できる。

具体的には、授業内容にオーストラリアの先住民族を含む歴史や生活、学校制度、多文化共生の様相等が含まれていたことから、これらの知識を獲得するとともに、現地の教員から生活者としての生の声を聴けたという利点が指摘されていた。また、授業後に各国の学生とオンラインで話すことで、自己のさらなる成長に向けた動機付けがなされたと報告している。加えて、「英語を使う」ことに対する心理的な壁が低減し、英語を使うコミュニケーションの楽しさや「繋がり」を持つことができる喜びとともに、国籍に関わらない価値観の存在、他者の考えを聞くツールとしての英語の役割への気づきも報告された。研修前に、申請者の教員間の人的ネットワークを通して、西オーストラリア大学生と本学生をつないで研修期間中にSNSで交流が行えたことも一助になったと思われる。さらに、参加学生はCELTの報告ビデオに参加して成果を還元した（https://www.youtube.com/watch?v=EOky54elaN8&feature=youtu.be ）。事前学習で自ら設定した地域課題の解決に関する調査は、プログラム修了演習科目において、現在も進行中である。

「グローバルな視野で自らと鹿児島、日本を相対的に捉え、地域課題を見つけてグローバルな視点で考察し、グローバルな人的ネットワークで他者と協働して課題に向けて行動できる」人材を育成するため、鹿児島市の姉妹都市であるパース市を研修先に選んで人的ネットワークの基盤を作り、鹿児島のグローバル化、両市の活性化や交流に寄与するという目的は、オンライン研修においても一定程度成果を得たと考える。また、初の試みであるオンライン研修に学生を参加させて効果を確認し、新たな形の国際交流教育の知見を得たことも、研修企画担当教員にとって成果となった。

〔今後の課題〕

少数の事例ではあるが、今回のオンライン研修実施によって、現地に滞在する留学とその学習成果を比較考察する機会を得た。両者に特徴的な利点があるため、今後の国際交流教育に互いの利点を活かす方向性が望ましいと考える。また、CELTのオンライン授業を垣間見ることで、オンライン教育の一例として参考になり、有益であった。しかし、多様な職業や世代にわたる現地の住民や学生との種々の活動、滞在中の実地調査や見学、生活体験等のインパクトは、現在のオンライン研修では現地滞在留学に及ばない。2022年度には、諸般の状況が改善し、現地滞在留学が可能となってこれらの活動が行えることを願っている。来年度の研修内容のさらなる充実に向けて、日本総領事館の協力も仰ぎ、パース市並びにCELTとさらに協議を進めて準備を行いたい。